

## 日本でフィリピンの家族を育てることの喜びと挑戦

今から 16 年前、希望に満ちた若き花嫁が、花婿とともに日本に来ました。日本に来るにあたり、彼女は心安らぐ祖国でのすべての事や、祖国を離れることへの不安を捨てました。

彼女は見知らぬ地で家庭を持つことを望んでいました、期待と不安を握りしめて。

私こそがその花嫁で、もう若くはありませんが、あまりに自国とは異なっていて、もはやその違いが普通のことになったこの地で今もわくわくしながら暮らしています。私の名前はカレン・パンプロナロペス。フィリピン人と結婚し、ここ日出処の国で二人の息子を育てています。

言うまでもなく、言葉は私にとって最も大きな挑戦です。おそらく私にとって最も幸運だったことの一つは、ここ成田の小学校で A L T として勤める機会を得たことでしょう。学校の制度がどのように機能しているかを学ぶことで、自分がそれほど無知ではないのだと、少なくとも自分や子供たちは感じる事ができています。

自分だけでやっていくことと、子供たちの日課からたくさんを知ること、全く別の次元のことです。

幸いなことに、私の夫は十分に日本語を知っているので、我が家の書類は全て彼任せです。

日本の学校制度は世界で最も優れたものの一つです。成田では、日本語を話したり読んだりできない生徒や両親のために通訳を派遣してくれています。その制度はうまく機能していて、皆それぞれが貢献することが求められています。例えば、私たちは子供たちが学校にいる間に、少なくとも 1 年は学校に関わることを求められています。成田の学校は、私のように日本語能力に限度がある人たち非常に配慮してくれますが、私は私に課せられた簡単な仕事を行うためにベストを尽くそうとしています。

そして課外活動があります！ここでは、校内校外に関わらず、スポーツが子どもの生活の大きな部分を占めています。私の息子たちはスポーツに積極的です。母親たちも積極的な参加者です。母親たちには決められた“当番”の日があり、当番の人は子どもたちを見て、飲み物の準備をし、何かあった時のために待機しています。また私たちは、しばしば競技会場へ子どもたちを運転して送らなければなりません。連絡を取るにはメールがよく使われるので、この google 翻訳が私の親友です！限られた日本語しか分からないことが、子供たちの活動を制限する言い訳となってはなりません。私は質問することを恐れたり、バカに見えてしまうことを気にするべきではないと学びました。また私は、色々な状況に対応できるよう機知に富むことを学び、最も重要なこととして、手を差し伸べてくれる人が必ずいるのだということを学びました。頑張っているうちに、新しい友人を得、多くのことを学びました。

日本の文化は、私たちの文化とは随分と異なっています。子どもたちに、どうして友達と目にするのが両親のやっていることとは違うのか説明しなければならないこともあります。自分が子供たちに教えていることと子どもたちが実際に体験していることが違う時は容易ではありませんが、どちらがより正しいかということはないのだという事をきちんと説明するようにしています。ただの違いであって、その違いを認めることを学んで欲しいからです。